



第30回日本内視鏡外科学会総会

The 30th Annual Meeting of the Japan Society for Endoscopic Surgery

2017年12月7日(木) ▶ 9日(土) 国立京都国際会館

心技一体 30年の想いを新たなる30年へ

会長 坂井 義治 (京都大学 消化管外科 教授)

2017年5月吉日

名古屋市立大学 大学院医学研究科 消化器外科
瀧口 修司先生侍史

第30回日本内視鏡外科学会総会
会長 坂井 義治
京都大学 消化管外科 教授



第30回日本内視鏡外科学会総会 上部消化管 シンポジウム1

Minimally invasive gastrectomy for advanced gastric cancer: current status and future perspective (仮)
ご講演のご依頼

謹啓

時下、先生におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、第30回日本内視鏡外科学会総会が、2017年12月7日(木)から9日(土)の3日間、国立京都国際会館において開催されることになりました。歴史と伝統を誇る学会を担当させていただくことになり、大変光栄に存じております。

1991年に第1回内視鏡外科手術研究会(会長:故出月康夫先生)が開催され、以後しばらくは年2回の開催でしたが、1994年から年1回の開催となり、1995年には日本内視鏡外科学会へ発展・改組されました。四半世紀を経て今回第30回の総会を迎えるにあたり、テーマを

「心技一体:30年の想いを新たなる30年へ」

とさせて頂きました。光学系や様々なエネルギーデバイスの発展による内視鏡手術の普及と進化、さらにロボット手術の登場などは、30年前には予想すらできませんでした。30年後の手術は果たしてどのような状況となっているのでしょうか。進化し続けるAIを搭載したrobotic surgeryは我々ヒトによる手術のどこまで関与、あるいは代替することになるのでしょうか。“技”の修練は必要なくなるのでしょうか。現在とは全く異なる修練過程が出現しているかもしれません。一方で医の基本である患者への“心(思いやり)”はこれからも変わることがないでしょう。進化する“技”と医の原点となる“心”の調和が求められます。

先人の開拓された内視鏡手術の歩みをふりかえり、加速する変革に想いをはせる総会になるよう、本学会総会プログラム委員会は多分野でご活躍の先生方で構成され、これらのテーマに沿って内容の充実したものに作り上げるべく、鋭意準備を進めているところです。プログラムが確定し次第、学会ホームページに公開していく予定です。

本大会の概要につきましては添付のとおりでございますが、この分野に造詣の深い専門家として、先生には<Minimally invasive gastrectomy for advanced gastric cancer: current status and future perspective(仮)>にてご講演を賜りたくお願い申し上げます。ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、是非お引き受けいただきますようお願い申し上げます。

お手数ではございますが、別紙1の応諾書にご記入の上、5月31日(水)までに運営事務局宛てにメールもしくはFAXにてご返信いただきますと幸甚でございます。

末筆ながら、先生の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

謹白



第30回日本内視鏡外科学会総会

The 30th Annual Meeting of the Japan Society for Endoscopic Surgery

心技一体 30年の想いを新たなる30年へ

2017年12月7日(木) ▶ 9日(土) 国立京都国際会館 会長 坂井 義治 (京都大学 消化管外科 教授)

開催概要

- 名 称: 第30回日本内視鏡外科学会総会
- テ ー マ: 「心技一体 30年の想いを新たなる30年へ」
- 会 長: 坂井 義治 (京都大学 消化管外科 教授)
- 会 期: 平成29年(2017年)12月7日(木)～9日(土)
- 会 場: 国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町 422 番地
<http://www.icckyo.or.jp/index.html>
- 参 加 人 数: 約5,000名
- 会 議 の 概 要: 会長講演、会員集会、30周年記念講演、特別講演、シンポジウム、
パネルディスカッション、教育セミナー、ワークショップ、
スポンサーードシンポジウム、Educational lecture、Educational Symposium
一般演題(口演・eポスター)、要望演題、Awardセッション、医工連携 等
- セ ッ シ ョ ン: 別紙ご参照ください
- 事 務 局: 京都大学 消化管外科
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54
- 運 営 事 務 局: 株式会社コンベンションリンクージ
〒604-8162 京都府京都市中京区烏丸通六角下ル七観音町634
プログラム担当: 西田 歩/畑 恵理子
TEL:075-231-6357 FAX:075-231-6354
E-mail:jses30@c-linkage.co.jp

※全体プログラム等、詳細につきましては確定次第、改めてご連絡させていただきます。
※第30回日本内視鏡外科学会総会の詳細につきましては、ホームページをご覧ください。
(<http://www.c-linkage.co.jp/jses30/index.html>)

上部消化管 シンポジウム1 「Minimally invasive gastrectomy for advanced gastric cancer: current status and future perspective」		
12月7日(木)午後		
言語:英語 ※抄録:日英併記 スライド:英語 発表言語:どちらでも可(同通あり)		
区分:指定		
There is little evidence regarding laparoscopic gastrectomy (LG) for advanced gastric cancer (AGC) at present. Currently, several randomized controlled trials (RCTs) are being conducted in Japan, Korea, and China, to verify oncologic safety of LG for AGC. Therefore, the results of these RCTs are strongly awaited. In this symposium, Dr. Hyung-Ho Kim (Seoul National Bundang Hospital) will give a key note lecture and the presenters will demonstrate their procedures of LG for AGC, especially those of radical lymphadenectomy. Through this session, the participants can learn reasonable, meticulous and safe techniques of LG for AGC, as well as those knacks and pitfalls.		
役割	氏名(敬称略)	所属
司会1	小嶋 一幸	東京医科歯科大学 低侵襲医歯学研究センター
司会2	佐野 武	がん研有明病院 胃外科
基調講演	Kim HH	Seoul National University Bundang Hospital
演者1	大森 健	大阪国際がんセンター 消化器外科
演者2	金治 新悟	神戸大学大学院医学研究科外科学講座 食道胃腸外科学分野
演者3	稲木 紀幸	石川県立中央病院 消化器外科
演者4	衛藤 剛	大分大学 医学部 消化器・小児外科
演者5	瀧口 修司	名古屋市立大学 大学院医学研究科 消化器外科